

PRESS RELEASE

報道関係各位

2021年2月20日

陽野ふるさと電力株式会社

埼玉県初の市民共同出資による小水力発電が、いよいよスタート

——地方と都市（秩父&東京）のコラボレーション事業——

陽野ふるさと電力（社長:長谷川辰巳）は、ボランティア団体「陽野ふるさと会」（会長:長谷川辰巳）と「一般社団法人鎮守の森コミュニティ推進協議会」（代表理事:宮下佳廣）とで2019年1月に設立された。陽野ふるさと会は秩父市荒川日野で20年以上にわたり、地域の生活環境の美化保全と住民の親睦、交流を図っており、近年の会員高齢化と実働要員の減少が進む中、後継者を育成し持続的な活動を進めるために新たな事業を模索していた。鎮守の森コミュニティ推進協議会（以下鎮守協と略）は京都大学こころの未来研究センター広井良典教授が提唱する「鎮守の森・自然エネルギーコミュニティ構想：伝統文化に関わるものを自然エネルギーと結びつけ、地方創生に役立てる活動」のフィールドを探索していた。

コラボレーションの発端は2016年に環境省が進める「つなげよう支えよう森里川海」プロジェクトの一環として実施した秩父ふるさと絵本づくりである。その活動の中で、鎮守協の宮下代表理事が秩父での小水力発電事業を提案、当時秩父市議会議員として参加していた江田治雄氏が賛同し、具体的な取り組みに進展した。事業目的は、東京電力に売電した事業収益により、周辺里山整備、花木植樹、ガーデンファームにより、首都圏との交流、関係人口を増やし、地域の活性化につなげること。具体的には、秩父市民19人、東京都民6人が各自20万円出資して資本金500万円の「陽野ふるさと電力株式会社」を設立して事業をスタート。2020年4月17日経済産業省の認可を受けて、2020年5月9日に起工式を実施し、いよいよ本年2月28日に竣工式を迎える。

これにより地域に資する事業のSDGs（持続可能性）が実現されることになる。同様の動きは、横瀬町・生川や小鹿野町など秩父圏に広がり始めている。

陽野ふるさと電力株式会社

資本金：500万円

事業目的：事業収益を原資に周辺里山整備、花木植樹、ガーデンファームにより、首都圏との交流、関係人口を増やし、地域の活性化につなげること

発電所：河川＝寺沢川 発電出力＝49.9Kwh 年間30万Kwh 発電開始＝2021年2月12日